

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUJIBAKU

2016. 10 No.90

トピックス

夏の学習プログラム

資料紹介

ビール冷やし

梶村 明慶

研究ノート

大坂蔵屋敷の移転

東 万里子

お知らせ

特別展開催中



津山郷土博物館

(表紙写真 「弥生土器をつくる」野焼きの様子)

Tsuyama City Museum

夏の学習プログラム



平成28年度は夏の学習プログラムとして、「弥生土器をつくろう」「勾玉をつくろう」「トンボ玉をつくろう」「カルメ焼きをつくろう」を実施しました。計99名の参加があり、それぞれの教室に参加したみなさんは、熱心に取り組んでいました。

■一宮小 5年 筒井千智さん

トンボ玉づくりは初めてだったけど、楽しくできました。思い通りにならない色のトンボ玉もあったけど、できてうれしかったです。ガラスのとけたところをぼうに同じあつさでまきつけるのがむずかしかったです。

■一宮小 5年 笹尾京香さん

さいしょに作ったのは、長い丸になってしまったけどさいごは、すごくきれいなのができました。くるくるとまわさないと、いびつな形になるので、そこを注意しました。私は、はじめ、火はちょっとこわいなと思ったけど、だんだん慣れてきました。ちょっとふしぎな形のトンボ玉もあったけどさいごのがきれいにつくれてよかったです。すごく勉強になりました。

■高野小 5年 松本知也さん

ガラスを熱するときにわれないようにしたけど、3つ目のときにわってしまった。そんなに火を使うときがないのでいけいけんになりました。トンボ玉は友達にあげたり、お母さんにあげたりしようと思います。おもしろかったです。またこれたらきたいです。



■西小 5年 八木真依さん

ガラスをあたためて、ぼうにまきつけるのがむずかしかった。一本失敗して残念だったけど、三つできてよかったです。色をかさねるときに、細くできなくて思ったとおりにはなかなかいかなかったけど、楽しかった。また、作ってみたいです。

■加茂小 6年 小原優菜さん

今日は、とても楽しかったです。ガラスをとかすのは最初は難しくドキドキしていましたが、2つ目、3つ目になるとだんだん慣れてきて楽しくなってきたのでよかったです。いろんな色をまぜてするときれいな色になったのでうれしかったです。また作ってみたいと思いました。



■弥生小 6年 尾嶋由菜さん

1回目はとても難しかったけどだんだん上手にできて、こつがつかめてきました。最初はできるかなと思っていたけどちゃんとできてよかったです。夏休みのいい思い出になりました。たくさん色があつたり、もようがつけれるのがよかったですと思いました。

トンボ玉をつくろう

8.3(※)

18名

カルメ焼きをつくらう

7.26(火)

18名

■ 弥生小 4年 佐倉陽美乃さん

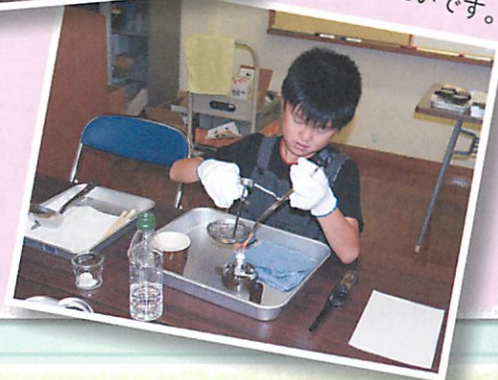
わたしはカルメ焼きを初めて作って、初めて食べました。温度を見ながらかきまぜるのがむずかしかったです。らんぱくとじゅうそうを入れてすばやくまぜるのが大変でした。まぜた後、ものすごくふくらむのにびっくりしました。

■ 東小 4年 山下珂徳さん

きじがふくらまなかったので次に作るときは温度計をよく見て作りたいです。



■ 東小 6年 田淵直也さん
重曹（ま法の粉）を夏休みの自由けん究で調べてみたい。大きくふくらんだので良かった。大きくだけではなくて、少し苦みがあるのでおいしかったです。また家で作ってみたいです。



■ 林田小 5年 光岡青海さん

思った以上にけずれて楽しかった。ペーパーを同じむきにしたらキレイになった。さわった感かくがきもちよかったです。

■ 広戸小 1年 川崎璃花さん

まるくけずるのがむずかしかったけどのしかった。きれいにできてよかった。またきたいです。

■ 佐良山小 4年 河本愛香さん

のこぎりでけずるのがむずかしかったです。でものこぎりもなればたのしかったです。サンドペーパーでけずるのもむずかしかったです。けずりすぎもいけないし、けずりぶそくもだめだしむずかかったです。最後のきれいにするのがたのしかったです。

■ 大崎小 3年 間庭菜々海さん

勾玉はむかしの人のアクセサリーだとはじめてしました。勾玉は、けずったりするのがすこしむずかしかつたけれど、とてもたのしかったです。また、つくりにきたいです。



■ 鶴山小 5年 水島颯汰さん

勾玉が17,000年前からあったことにおどろいた。いとこのこで切るのがむずかしかつた。サンドペーパーでみがいていくのもたいへんだった。でもいい作品が作れたので楽しかったです。

■ 弥生小 6年 松本幸心さん

最初はカクカクだったので、丸くするのがむずかしかつたけど、大学生に教えてもらったから、きれいに出来た。粉だらけだったので水につけると半とうめいになったのでびっくりした。とても楽しかったです。

■ 弥生小 6年 竹内瑞希さん

勾玉についての知識も教えていただきありがとうございました。家でも、勾玉についてさらに調べてみたいと思いました。上手に形を作るのはむずかしく大変でしたが、完成したときはとてもうれしかったです。色のついた勾玉も作ってみたいと思いました。楽しく勾玉がつくれ、勾玉についても知ることができました。ありがとうございました。また、このような体験教室があつたら参加してみたいと思いました。

まがたま 勾玉をつくらう

8.9(火)

51名

■ 西小 5年 前原優依さん

粘土で土器を作るとき、すばやくひも状にしないとかんそうするので、そこがむずかしかったです。火おこしは、まいぎり法をするのでしてみたら全く火がつかなかったので、昔の人はすごいなと思いました。つなぎ目をけすとき、つまんでしたらいけないので、ちよつとむずかしかったです。本物の弥生土器は形が整っていたのですごかったです。自分が作った弥生土器で何かを入れてみたいです。家にねん土があったらまた弥生土器を作りたいです。弥生土器についていろいろ知れて良かったです。



■ 佐良山小 6年 池田実咲さん

7/27 水曜日に、土ねんどで弥生土器を作るのが大変だった。こねるとき、力を入れて縄を作って重ねて作って楽しかった。土笛という物を作って、ふいてもらったら、きれいな音が出て、うれしかった。土器を作るのに時間がかかり大変でした。ただねんどを形にしてやると思ったら、1個1個、縄をつくり、指でなすってくっつける事が分かった。8/17 土器を焼くだけで、時間がたくさんかかる事が分かった。火種を作るだけでとても工夫がいる事が分かった。野焼きは、温度が急に変わるとひびが入り、割れる事がある大変な仕事と分かり勉強になりました。

■ 一宮小 6年 西尾友博さん

7月27日には、ねん土で弥生土器を作りました。ねん土で何を作ったかという「はち」と「つぼ」を作りました。特に難しかったのは、こねて細長くすることです。ずっとこねていると手がつかれてきました。でもあきらめずにがんばりました。8月17日の弥生土器では、つぼやはちをそのまま火にうつしました。その次に、火おこし体験をしました。火おこし体験は一回はやったことあるのでかん単でした。弥生土器がちやんと焼けているのが楽しみです。



■ 弥生小 6年 竹内一真さん

土器をやくのみて、われたのがあってわれるのもあるんだなと思いました。今まで一番難しかったのは、ねん土で土器を作ることが難しかったです。一番えらかったのは火おこしです。あなからはずれたりしてえらかったです。博物館の見学をして、1500万年前の生き物を見ると、津山の周りは海でかこまれていたのでびっくりしました。昔は津山はすっごく小さいことが分かりました。まだ理由が分かっていない歴史があるのでびっくりしました。



博物館キャラクター「鶴若」

上手にできたかな



弥生土器をつくらう

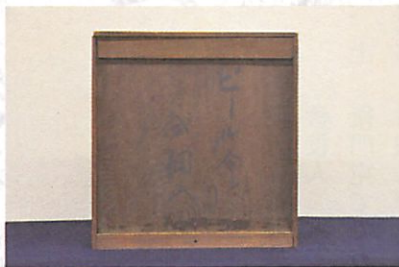
7.27(水)・8.17(水)

12名

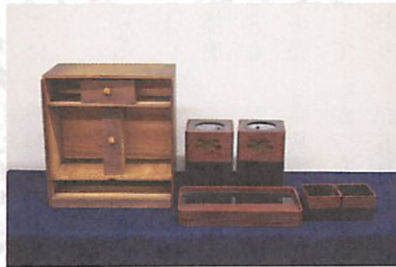
ビール冷やし



ビール冷やし



箱書



箱の中身



ビール冷やしの内部

この資料の箱のふたには「ビール冷シ式個人」と書かれています。中にはお盆が2つ、ビール瓶に付く水滴でテーブルを汚さないため用いられる「袴」とよばれるものが2つ、そして、ビール冷やし本体と思われる筒が2つ整然と収納されています。使用された時期や、具体的にどのような使用されていたものかなど、所蔵されていた方もご存じではなく、詳細は不明です。

ビール冷やし本体の中身は、内側の側面と底は鉄で覆われ、瓶を入れる丸い筒との間に空間がある構造になっています。おそらくこの隙間に氷や冷たい水などを入れ、ビール瓶を冷やしたのと思われま

ます。大きさは、ビール瓶が丸々収まるものではありません。したがって、冷蔵庫のように、事前にビールを冷やしておくものではなく、食卓や宴席でビ

ールを冷やすか、若しくは冷えたビールがぬるくなってしまうのを防ぐ目的で使用されていたものと想像できます。形も家具調になっており、来客用に使用されていたのかもしれないと。また、庭などちよつとした屋外での使用にもちょうどよく、アウトドアでの使用も考えられます。

このように色々使用方法を想像できますが、いずれにしても、食事中、最後まで冷えたビールを飲むための道具であったことは間違いないようです。

宴会などでは、会話に夢中になり、気付けば瓶のビールがぬるくなっているという事はよくある話で、今でも宴席にあれば便利なビール冷やしです。



梶村 明慶

大坂蔵屋敷の移転

東万里子

はじめに

蔵屋敷の「買上」と「買添」

津山藩は、江戸以外に大坂と京都にも屋敷があり、大坂の蔵屋敷は、藩財政にとって重要な役割をはたしていたことが明らかにされてきた。

〔津山学ことはじめ〕

「津博」第八十七号において、江戸時代の大坂案内本や『中之島誌』などを参考に、津山藩の大坂蔵屋敷の位置について表にまとめた。しかしその時点で、津山藩松平家文書の中に蔵屋敷移転についての記述を見つかる事はできていなかった。

今回の研究ノートでは、津山藩松平家文書の「国元日記」「勘定奉行日記」などの中で、現在確認できた安永九年（一七八〇）の蔵屋敷移転について簡単にまとめてみたい。日記中では蔵屋敷について、「御屋敷」「蔵屋敷」などの言葉で記されているが、本研究ノートでは便宜上蔵屋敷で統一した。

安永九年、津山藩の蔵屋敷は、土佐堀二丁目から中之島の常安町に移転している。この時の状況は、「勘定奉行日記」（「子正月之清書」）に記されている。

当時、土佐堀の蔵屋敷は手狭になっており、売物件を探していた。よい売家屋敷が中之島にみつかると、播磨屋伊右衛門という人物が普請なども含めた資金調達を申し出た。この売り屋敷の東の間口九間半を所持していた仙台屋は家を買に入れており、利息が滞っていた事から訴訟になっていたため、手続きを急ぐ必要があった。

三月十二日、東の九間半を所持していた仙台屋と、残り四間分を所持していた伝法屋に手付が支払われた。その際、仙台屋と伝法屋それぞれが、家屋敷を売り渡す旨の「覚」と手付を確かに受け取った旨の「手附銀請取証文之事」を作成した。「覚」は仙台屋・伝法屋それぞれから津山御屋敷世話人播磨屋伊右衛門宛て、「手

附銀請取証文之事」は津山藩の蔵屋敷役人二人と買請世話人播磨屋伊右衛門宛てであった。それらの書類は日記に書き写されている（同日記三月二十四日条）。

四月二十九日には無事帳切がおこなわれた。帳切とは、台帳の名義変更をする事で、この時実際にどのような書類を作成したのか、残念ながら日記の中で見つける事はできなかった。帳切と同時に、「御買上御屋敷質入」し、質入れしても足りなかった資金は借り入れている（同日記五月七日条）。また天明五年（一七八五）にはこの屋敷の西隣七間口を「買添」している（天明五年「勘定奉行日記」三月九日条）。これにより、間口の合計は二十間半となり、前回の研究ノートで写真を掲載した安政六年（一八五九）の蔵屋敷の絵図に記載されている間口と一致する。

一方これまでの土佐堀二丁目の屋敷をどうするのか、という事も問題となっていた。土佐堀の屋敷の東六間分は、元小松藩の屋敷であり、津山藩側の深江屋惣左衛門と小松名代

人の相談により、買い上げた値段と同じ値段で譲る事となった。

いくつかの疑問点

前回と今回の研究ノートをふまえて、新たにいくつかの疑問がわきあがった。そのうち、以下3点について、現在確認した断片的な記述をそのまま列挙する。

①上中之島町の蔵屋敷？

前回の研究ノートで、『新修大坂市史』第三巻などの記述から、前述した土佐堀二丁目に蔵屋敷があったと確認できた時期より前、元禄元文にかけて、上中之島町に蔵屋敷があったのではないかと指摘したが、現時点で、津山藩文書の中で上中之島町に蔵屋敷があった事についてまだ確認できておらず、引き続き調査が必要である。しかし、前記安永九年の「勘定奉行日記」十一月六日に、「一大坂土佐堀是迄之御屋敷享保十八年并御買添安永五申二月売券状

(以下略)とあり、この記述から、土佐堀の蔵屋敷について享保十八年(一七三三)に何かしらの手続をし、安永五年(一七七六)に「買添」た、と考える事ができる。安永五年の「買添」については勘定奉行日記により確認できるので②でふれたい。残念ながら享保十八年の勘定奉行日記は残されておらず、関連する記述を見つける事はできていない。

②「買上」の意味

大坂の町は幕府直轄領であり、藩は土地を持つことができない、とされておられ、前回の研究ノートでもそう述べた。しかし、安永九年の勘定奉行日記などには「買上」「買添」といった言葉が散見される。実際に、前記の手附銀請取証文には「私所持之家屋敷」を売り渡す旨が記されており、宛名には買請世話人とともに津山藩の役人も名を連ねている。少なくとも津山藩内部には、蔵屋敷は藩で「買上」、そして「買添」もこのという認識があったと考えられる。

一方で、名義変更である帳切の際に作成された書類や、「質入」の書類は確認できておらず、実際の名義がどうなっていたのかはわからない。また、①でのべた安永五年の土佐堀二丁目の「買添」に関して、安永五年

の「勘定奉行日記」正月二十六日には、「(前略)東隣六間口大方相済近日深江屋惣左衛門江帳切買請候答(後略)」とある。深江屋惣左衛門は、いつからかは現時点でわからないが、安永九年以前より津山藩の名代を勤めていた商人であり、以下③で触れる。また、同年の国元日記にはこの「買添」に関して津山藩の蔵屋敷役人から、大坂の町奉行所に対して、「委細之義者名代之者より御届可申上候得共為念私よりも此段申上候」とある(二月二十一日条)。これらの記述から、安永五年の「買添」には深江屋惣左衛門が深くかわつており、名代からも大坂の町奉行所に対して詳細が報告される予定となっている事がわかる。

また、「はじめに」でも述べたとおり、「国元日記」「勘定奉行日記」では、「家屋敷代銀」「御買上屋敷」「御屋敷質入」「御家質」など、様々な言葉で蔵屋敷の事が記されている。一般的に家屋敷といった場合、家とその敷地を表す事が多いが、今回の場合、津山藩の役人達がどのように言葉を使っているのかわからない部分がある。

③名代の変更

名代とは、町人で、蔵屋敷の名義

上の所有者である、と考えられている。②で登場した深江屋惣左衛門の安永五年の動きも、名義上の所有者としての動きと考えられるのかもしれない。それでは、名代は蔵屋敷が移転すると、変更するのだろうか。

安永九年、土佐堀二丁目から中之島の常安町へ蔵屋敷が移転したとき、名代をどうするのか、蔵屋敷役人から国元へ相談があった。常安町以外の者が名代となる場合、家守が必要である、という町法があり、深江屋は町外であった。しかし、名代は変更せず、年久しく勤めてきた深江屋惣左衛門でいくこととなった。その後も深江屋との関係は長くつづいたと考えられる。

文政六年(一八二三)「勘定奉行日記」八月十八日に、名代の変更の記述がある。それによると、名代深江屋惣左衛門は文化十四年(一八一七)、末期におよび、男子がいなかったために甥である河内屋新三郎へ名代を一時的に勤めさせ、その後養子を迎えることとしたという旨を願ひ出、そのようにしていた。その後その甥も亡くなり、養子を迎える事ができないほど困窮した。数代に渡って勤めてきた家ではあるが、致し方ないので、庄村新四郎町塩飽屋仁左衛門と申す者へ名代を仰せつけた。しかし、深江屋惣左衛門はまじめに

勤めていたので、困窮している老母には、今までのとおり生涯捨扶持二人扶持を下しおく事となった。

以上の事により、津山藩においては、安永九年の蔵屋敷の移転によって名代が変更となる事はなく、名代自身の都合によって変更となった点を確認した。

おわりに

蔵屋敷移転をめぐる諸問題について、断片的に記述した。享保十八年に土佐堀二丁目の蔵屋敷について何かしらの手続し、その後安永五年にその蔵屋敷の東隣を「買添」たものの、手狭になり、安永九年に中之島の常安町へ移転した。移転しても手狭であり、天明五年に西隣を「買添」している。現在まだ調査中だが、享保十八年以前、元禄の終わり頃には蔵屋敷が中之島の上中之島町にあつたとする記述もあり、そうすると、蔵屋敷は二回移転したと考える事もできる。蔵屋敷の位置についてもさる事ながら、蔵屋敷に関わる買請世話人・名代・家守、そして銀主などの大坂町人との関係など、不明な点が多くのごさされた。

特別展開催中!

「行列を組む武士たち ～津山藩松平家の行列図より～」

会期：11月20日(日)まで

■江戸時代の支配階層である武士たちは、移動や旅の時に行列を組んで進みました。本展では、津山藩松平家の各種の行列図のほか、乗物や熊毛槍など行列に用いた道具類を合せて紹介し、武士の行列を通して江戸時代の社会のありようを概観します。

■今回、現存する松平家の行列図を全て展示しますが、ふすま仕立ての図は全長13mを超えるもので、全てを展示する機会はなかなかありません。この機会にぜひ、その迫力をご体感ください。



特別展図録販売中です!

■A4ヨコ/59ページ/価格1,000円 当館にて販売中です。

本年度特別展図録好評販売中です。

当館所蔵の松平家の行列図を

すべて収録したものになっており必見です。

【おもな展示資料】

●松平家の行列図

10万石加増後初入国の行列図2種

(ふすま仕立ての図/全7面、絵巻図/全3巻)

將軍代替わり時の江戸城登城の図2種

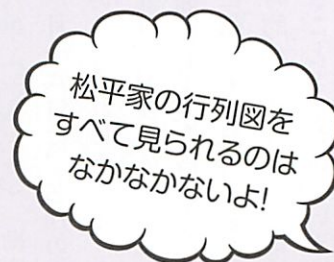
(額装図/全6種、絵巻図/全1巻)

平常時の江戸城登城の図 (絵巻図/全1巻)

江戸にて火消し出動時の行列図 (絵巻図/全3巻)

●行列に用いた道具類

熊毛槍 火消用纏まとい(葵紋付) 藩主が用いた乗物



博物館キャラクター
「ファイアー」



博物館だより「つはく」
No.90 平成28年10月1日

津博
TSUYAMA

【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.t.ne.jp

【印刷】有限会社 弘文社

入館のご案内

【開館時間】午前9:00～午後5:00

【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

【入館料】一般…200円(30人以上の団体の場合160円)

高校・大学生…150円(30人以上の団体の場合120円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方・
市内在住の65才以上の方は、入館料が無料です。